

Because + 命令文の時間に関する調査

富山 晴仁

A Research of Time Relating to *Because*+Imperative Constructions

Haruhito TOMIYAMA

ABSTRACT

This paper reports on a survey of *because*+imperative constructions. The survey was conducted at Saginaw Valley State University, USA, in the fall semester, 2018. The result shows that *because*+imperative constructions do not refer to future time but only refer to present time, which is simultaneous with speech time.

KEYWORDS : *Because*+imperative constructions, future time, present time

I はじめに

本稿は、米国 Saginaw Valley State University に 2018 年度交換教授として滞在期間中に行った、*because* + 命令文の時間に関する調査結果の報告である。本稿で扱う *because* + 命令文とは、(1) のようなもので、*because* 内に理由を表す *statement* を伴わないものである。¹⁾ この種の *because* + 命令文の他の例や、解釈に関しては、富山 (2018) を参照されたい。

(1) …We also know that she put up a struggle but we know she didn't harm the person because look at her hands. The only thing on her hands is her own blood and the only thing under her fingernails is her own blood. (*Death of a Dream* P. 18) ²⁾

II 目的

本調査の目的は、*because* 内に現れた命令文が、発話時よりも未来に行われる行動を求めることができるのか否かを明らかにすることである。未来の時間の動作を示せない命令文としては、日本語の畳語形の命令文を挙げられる。例えば、「乗った乗った」のような畳語形で発せられた命令は、動作実行のタイミングで発せられるので、未来の時間を指定する

「明日」と共起させると「*明日そのバスに乗った乗った」のように不自然な文となる (井上 (1993 : 342))。 ³⁾

III 調査方法

小説からの抜粋である (1) の下線部と、(1) に基づき作成した (2)(3)(4) の下線部に対して、英語話者がどのような評価をするかを調査した。(2)(3)(4) には、発話時の時を表す *right now*、未来の時を表す *tomorrow*、時の副詞節 *when you meet her* がそれぞれ付加されている。

(2) …We also know that she put up a struggle but we know she didn't harm the person, because look at her hands right now.

(3) …We also know that she put up a struggle but we know she didn't harm the person, because look at her hands tomorrow.

(4) …We also know that she put up a struggle but we know she didn't harm the person, because look at her hands when you meet her.

インフォーマントは、Saginaw Valley State University において 2018 年度の秋学期に開講された、JAPAN 111 (Elementary Japanese I), JAPAN 211 (In-

termediate Japanese I), JAPAN 332 (Japanese Conversation), ENGL 205/MFL 205 (Japanese Literature in Translation) の受講生の中の英語を母語とする学生である。⁴⁾それぞれの授業における調査の実施日とインフォーマントの数は以下の通りである。

(5)

	(1)	(2)(3)(4)
JAPAN 111	10月24日・19人	11月14日・17人
JAPAN 211	10月24日・6人	11月14日・6人
JAPAN 332	10月25日・7人	11月13日・7人
ENGL 205/MFL 205	10月25日・17人	11月13日・21人
合計人数	49人	51人

インフォーマントには(1)–(4)の自然さを判断し、3つの選択肢 Very Natural, Somewhat Natural, Very Unnatural のいずれかを○で囲んでもらうことを求めた。

Ⅳ 結果

クラス別の結果は下記の通りである。表内の数は回答者数である。

(6) JAPAN 111

	(1)	(2)	(3)	(4)
Very Natural	16	4	1	5
Somewhat Natural	3	12	5	9
Very Unnatural	0	1	11	3

(7) JAPAN 211

	(1)	(2)	(3)	(4)
Very Natural	4	3	0	1
Somewhat Natural	2	2	1	5
Very Unnatural	0	1	5	0

(8) JAPAN 332

	(1)	(2)	(3)	(4)
Very Natural	4	2	0	0
Somewhat Natural	3	5	1	2
Very Unnatural	0	0	6	5

(9) ENGL 205/MFL 205

	(1)	(2)	(3)	(4)
Very Natural	8	6	1	8
Somewhat Natural	8	14	4	7
Very Unnatural	1	1	16	6

各クラスから得られた結果を合計したものが⁽¹⁰⁾である。

(10)

	(1)	(2)	(3)	(4)
Very Natural	32	15	2	14
Somewhat Natural	16	33	11	23
Very Unnatural	1	3	38	14

(10)を割合で表したものが⁽¹¹⁾である。構成比は小数点以下第二位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100とはならない。

(11)

	(1)	(2)	(3)	(4)
Very Natural	65.3%	29.4%	3.9%	27.5%
Somewhat Natural	32.7%	64.7%	21.6%	45.1%
Very Unnatural	2.0%	5.9%	74.5%	27.5%

Ⅴ 考察

1. (1) (原文)

(1)の下線部のような statement の無い *because* + 命

令文は、非標準的な表現であるものの、小説の中で使用されていることからその容認度は高いことが予想できる。今回の調査でも65.3%が Very Natural だと判断し、わずか2.0% (1名) だけが Very Unnatural だと判断する結果となった。(1)は英語話者にとって、十分に容認できる表現だと考えられる。

2. (2) *right now*

(1)と比較して、Very Natural と評価する割合が65.3%から29.4%へと半分以上に落ち込んだ。Somewhat Natural においては、32.7%から約倍の64.7%へと上昇した。2.0%であった Very Unnatural は5.9%となった。このように全体的に容認度が下がる方向へ移行した結果となったが、依然として約3割が Very Natural と判断し、Very Unnatural と評価した割合も約6%に留まっている。これらのことから、発話時の時間を示す *right now* を付加しても、(1)のような *because* + 命令文は英語話者に容認されると考えることができる。

3. (3) *tomorrow*

未来の副詞 *tomorrow* を付加した文が(1)(2)(3)(4)の中で最も容認度を落とす結果となった。Very Natural との評価はわずか3.9%で、Somewhat Natural と合わせた場合でも約4分の1の25.5%である。Very Unnatural の割合が74.5%であることから、この未来の時間の *tomorrow* を付加した場合の *because* + 命令文は容認されないと考えられる。この結果は、発話時の時間を表す *right now* を付加した場合と顕著な違いを示している。

4. (4) *when you meet her*

(4)の *when you meet her* も、原文と比較して容認度を落としている。Very Natural と Very Unnatural に関しては *right now* に次ぐ割合、Very Unnatural に関しては *tomorrow* に次ぐ割合を示している。つまり *when you meet her* の付加は、*right now* の場合よりは悪く、*tomorrow* の場合よりは良いと言える。興味深いのは、27.5%が Very Natural と判断している一方、同じく27.5%が Very Unnatural と評価

している点である。Somewhat Natural が5割弱の45.1%であることも踏まえると、何らかの理由で容認度の判断が難しい文であったのかもしれない。

VI まとめと今後の課題

以上のように、*right now* を付加した文は容認度が比較的高く、*tomorrow* を付加した文は容認度が低いという結果が得られた。今回の調査結果に限って言えば、*because* + 命令文は、発話時点での行為の遂行を求める表現であると考えることができる。⁵⁾この見通しが正しいか否かは、より精査した文を複数提示して調査を行っていく必要がある。⁶⁾また、*when you meet her* の付加した文の評価が分かれたことに対しては、引き続き考察を重ねていく。

参考文献

- Takahashi, Hidemitsu (2012) *A Cognitive Linguistic Analysis of the English Imperative: With Special Reference to Japanese Imperatives*, Amsterdam/ Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
- Verstraete, Jean-Christophe (2005) "Two Types of Coordination in Clause Combining," *Lingua* 115: 611–626.
- 井上優 (1993) 「発話における『タイミング考慮』と『矛盾考慮』—命令文・依頼文を例に—」『国立国語研究所研究報告集』14, 333–360, 秀英出版
- 富山晴仁 (2018) 「*Because* 節内に現れる様々な命令文について」『日本英文学会第90回大会 Proceedings (2017年度支部大会 Proceedings)』277–278, 日本英文学会

註

* 今回の調査に快く協力してくださった、Saginaw Valley State University の Department of Modern Foreign Language に所属する Monika Dix 教授に心より感謝の意を表します。

1) 理由を表す statement が現れている *because* + 命令文とは下記のようなものを指す。下線部分が理由の statement に相当する。

- (i) I only made US\$6000 in the whole year, and even like the next two years, I was just like getting by, because don't forget that our expenses are very high. (Verstraete 2005: 621)

(ii)...my only view is that, er, the reason is that, by the time it saw the light of day, because remember, the manuscript was in the, the manuscript was physically in the possession of the Bullitt family not the Freud family. (Takahashi 2012 : 182)

2) Paul LaRosa and Erin Moriarty, 2008, Pocket Star, New York.

3) 井上 (1993) は, 「現在動作実行のタイミングにある」ことを前提にして発せられる命令文を「タイミング考慮」の命令文として分類している。

4) この4つの授業は全て, 今回の調査に協力して下さった Monika Dix 教授が担当されている授業であ

る。

5) 井上 (1993) の「タイミング考慮」に該当すると言える。

6) 今回の調査の後, ある英語話者に同じ(1)–(4)の文を見せたところ, フォーマルな文体である主節に, 口語表現である *because look at her hands* が後接しているのは不自然であるとのコメントを得た (その英語話者の判断では, (1)–(4)はそれぞれ, (1)Somewhat Natural, (2)Very Natural, (3)Very Unnatural, (4)Very Unnaturalであった)。今後の調査では *because* + 命令文が非標準の表現であることを踏まえて, 提示する文を作成する必要がある。